

「日本博」参画プロジェクト申請プロジェクト一覧

申請プロジェクト数	56
認証プロジェクト数	52

2019年5月27日

組織・団体名	都道府県	プロジェクト名	開催期間	開催地	分野	他機関主催/共催等	事業概要
東京国立博物館	東京都	日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」—皇室の至宝・国宝プロジェクト— 特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流—日本美を伝える—」	平成31年3月5日（火）～4月29日（月・祝）	東京都	美術・文化財	主催/独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、宮内庁、文化庁、読売新聞社 特別協賛/キャノン、サントリーホールディングス、資生堂、JR東日本、積水ハウス、高島屋、日本たばこ産業、野村ホールディングス、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス 協賛/JTB、竹中工務店、成田国際空港、日本郵政グループ、三菱重工業、三菱商事	天皇・皇后両陛下の御即位30年を記念し、両陛下が担われた文化交流を紹介する特別展覧会を開催。皇室で受け継がれてきた名品も展示。
東京国立博物館	東京都	美を紡ぐ 日本美術の名品—雪舟、永徳から光琳、北斎まで—	令和元年5月3日（金・祝）～6月2日（日）	東京都	美術・文化財	主催/独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、文化庁、読売新聞社 協力/宮内庁 特別協賛/キャノン、サントリーホールディングス、資生堂、JR東日本、積水ハウス、高島屋、日本たばこ産業、野村ホールディングス、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス 協賛/JTB、竹中工務店、成田国際空港、日本郵政グループ、三菱重工業、三菱商事	文化庁、東京国立博物館、宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する、狩野永徳、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの、「自然」にまつわる名品が中心に並ぶ。
東京国立近代美術館	東京都	イメージコレクター・杉浦非水展	前期：平成31年2月9日（土）～4月7日（日） 後期：平成31年4月10日（水）～5月26日（日）	東京都	美術・文化財	主催/独立行政法人国立文化財機構東京国立近代美術館 共催/毎日新聞社 特別協力/愛媛県美術館	日本のグラフィックデザインの創成期に、重要な役割を果たした図案家の杉浦非水。ポスターや表紙デザイン、新たにデジタル化した16mmフィルムの映像やスクラップブックなど、日本の四季を取り入れた作品を中心に公開。
国立西洋美術館	東京都	林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商	平成31年2月19日（火）～5月19日（日）	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立文化財機構国立西洋美術館	西洋で日本美術品を商った初めての日本人である林忠正について、万博などとの関わりや、地域の風土に根差した、日本そして西洋の美術・工芸品を介して培われた交友に注目し、生涯にわたる活動を概観する。
東京国立近代美術館	東京都	桃山時代から現代へ「The 備前—土と炎から生まれる造形美—」	平成31年2月22日（金）～5月6日（月・休）	東京都	美術・文化財	主催/独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション 制作協力/NHKプラネット中部	桃山時代に茶人・数寄者によって見立てられた古備前の名品から、その古備前に魅せられ作陶に取り組んできた近代の作家、さらに重要無形文化財保持者や若手の最新作まで3部構成で紹介し、土と炎の造形から生まれるシンプルで原始的なやきものである備前焼の魅力を紹介。
国立劇場	東京都	歌舞伎「元禄忠臣蔵—御浜御殿綱豊卿—」 「積恋雪関扉」	平成31年3月3日（日）～27日（水）	東京都	舞台芸術	主催：独立行政法人日本芸術文化振興会	新歌舞伎の名作『元禄忠臣蔵—御浜御殿綱豊卿—』と歌舞伎舞踊屈指の大曲『積恋雪関扉』—古来日本人に愛され、日本人のこころに寄り添う「桜」が印象に残る2作品を取り上げ、平成最後の春を彩る。
国立劇場	東京都	高精細レプリカ展示	平成31年3月3日（日）～	東京都		主催：独立行政法人日本芸術文化振興会 共催：大塚オーミ陶業株式会社	桜にちなんだ歌舞伎公演に合わせ、加山又造作「おぼろ」や風神雷神図の陶板による高精細レプリカ（大塚オーミ陶業株式会社）を特別展示。
国立科学博物館	東京都	日本館春祭り	平成31年3月3日（日）～31日（日）	東京都	生活文化・文芸・音楽	主催：国立科学博物館	日本博の開幕に合わせて、日本館中央ホールにて、「桜」に関連した植物画を特別公開するとともに、日本古来の縮景芸術のひとつ「盆石」の実演、茶会や琴の演奏会など、日本の文化を体感頂くさまざまなイベントを実施。

東京国立博物館	東京都	国宝 東寺－空海と仏像曼荼羅	平成31年3月26日（火）～6月2日（日）	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、真言宗総本山教王護国寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション 特別協賛：大和証券グループ 協賛：NISSHA	弘仁14年（823年）に空海が嵯峨天皇から東寺を賜わり、真言宗を創立してから2023年に立教開宗1200年を迎えることを記念して、当時に伝来した密教美術の名品を展示。密教で万物の根源と位置付ける大日如来は、生命、自然を育む太陽と同一視される。21体の仏像で構成される東寺講堂の曼陀羅のうち15体の仏像を展示するほか、国宝31件、重要文化財60件を含む110件で構成する。平安・鎌倉から脈々と受け継がれた寺宝を通じ、現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信する。
東京国立博物館	東京都	奈良 大和四寺のみほとけ	令和元年6月18日（火）～9月23日（月）	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、日本経済新聞社	奈良県中東部に位置する岡寺、安倍もんじゅ印、長谷寺、室生寺の飛鳥時代7世紀～奈良時代8世紀の四箇寺の仏像を紹介する。祈雨、止雨が祈られた龍穴の存在や修験道に関わりが深いなど、自然との関わりが深い寺院であり、本展覧会を通じて寺宝を紹介するとともに、自然と共存してきた日本人の振興および文化を発信する。会場には寺院紹介パネルを掲示するなど、各寺院への観光客の誘致も図る。
東京国立博物館	東京都	住友財団修復助成三十年記念特別企画 「文化財よ、永遠に」	令和元年10月1日（火）～12月1日（日）	東京都	美術・文化財	主催：住友財団、泉屋博古館、泉屋博古館分館、独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、九州国立博物館、住友グループ各社、読売新聞社、京都新聞 後援：文化庁、美術院、国宝修理装演師連盟	住友財団の文化財修理助成事業の30年と1000件達成を記念して、修理された作品を日本各地で展示する。 木、漆、岩絵具など自然の素材を用いた文化財が日本の特色で、夏季の高温多湿な気候、冬季の乾燥、そして地震が多いことなど日本の自然が文化財に害を及ぼすため発達したとも言える修理技術と東日本大震災や能登半島地震で被災した仏像を含む修理の成果を発信する。 本展覧会では修理前・修理後の写真を示し、作品ごとに多様な修理の様子を伝え、伝統的な修理技法を通じて、日本人が受け継ぐ振興や美を全国4か所で発信する。近年修理を行った東日本大震災や能登半島地震で被災した仏像を含め、昭和19年当館とフランス極東学院との文化財交換でベトナムに渡った阿弥陀如来立像を75年ぶりに里帰り展示予定。
東京国立博物館	東京都	特集「親と子のギャラリー ツノをもつ動物」	平成31年4月16日～5月26日	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館	本来ツノは外敵から身を守り、雄同士の戦いをするための武器として使用されるが、ツノが生えていない人間は、ツノを神聖なものとし、あるいは畏怖の念を抱き、ツノをもつ動物を神の使いとして霊獣視し、空想上の瑞獣をツノが生えた姿で想像した。 本展では、日本古来より美術工芸作品のモチーフとされたシカやウシなどの実在の動物に加えて、龍や麒麟などの空想上のツノのある動物を対象とした作品を一同に公開し、日本人と動物の多様な関係を文化的に明らかにする。
京都国立博物館	京都府	時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝+一遍聖絵と時宗の名宝	平成31年4月13日（土）～6月9日（日）	京都府	美術・文化財	主催：京都国立博物館、朝日新聞社、時宗総本山清浄光寺（遊行寺） 協賛：京阪ホールディングス、竹中工務店 協力：仏教美術研究上野記念財団、日本香堂、楽浪文化財修理所	遊行や踊り念仏などで知られる時宗は、宗祖一遍上人によって開かれ、二祖の真教上人によって教団として発展した。2019年に真教上人の七百年遠忌を迎えるのを記念して、歴代祖師の肖像彫刻や肖像画をはじめとする時宗の名宝が一堂に会する。
京都国立博物館	京都府	ICOM京都大会開催記念特別企画 京博寄託の名宝 美を守り、美を伝える	令和元年8月4日（水）～9月16日（月・祝）	京都府	美術・文化財	主催：日本博物館協会、ICOM、ICOM日本委員会、ICOM京都大会組織委員会2019、日本学会 協力：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都府、京都市 協賛：協賛企業多数	京都国立博物館寄託の名品には、その時代ごとの日本人の感性が反映されており、日本の伝統的・文化的価値が人々の精神活動や自然への眼差しを基礎としていることが理解できる。 120年にわたって京都を中心とする近隣の寺社等が所蔵する文化財を寄託保管し、現在寄託作品の総数は約6000件にのぼる。本展では、その中から厳選して内外の博物館関係者や旅行者が数多く京都を訪れるICOM京都大会の会期に合わせて展覧し、京都文化の精髓を紹介する。
奈良国立博物館	奈良県	国宝の殿堂 藤田美術館展 一曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき	平成31年4月13日（土）～6月9日（日）	奈良県	美術・文化財	主催：奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿 協力：日本香堂、藤田観光、仏教美術協会 特別協力：藤田美術館 協賛：ダイキン工業、大成建設、	藤田美術館（大阪市）のコレクションを集めた藤田傳三郎は日本の自然を愛し、日本美における自然描写の卓越さに早くから気づいた自分つであった。 本展は、日本人と自然に関わる作品を柱とし、仏教美術、茶道の美術、公家の美術、禅のほか能装束、能面、考古遺品、陶磁器などにわたって紹介する。自然描写豊かな絵巻や水墨画、草花をちりばめた和歌の料紙、さらに蒔絵に見られる花鳥表現など、細部の魅力もアピールする。

奈良文化財研究所	奈良県	高御座展	平成31年4月27日(土)～6月2日(日)	奈良県	美術・文化財	主催：奈良文化財研究所 後援：文化庁，国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所，県営平城宮跡歴史公園管理事務所，平城宮跡管理センター，奈良県教育委員会，奈良市教育委員会	新天皇のご即位を記念して，奈良文化財研究所所蔵の高御座模型を展示し，復元した奈良時代の高御座の意匠，高御座の役割などについて解説。連続と続く歴史の息遣いを感じることができる。
奈良文化財研究所	奈良県	埋（うず）もれた大宮びとの横顔 一葉・まじない・荘園の木簡	平成31年4月8日(月)～4月26日(金)	奈良県	美術・文化財	主催：奈良文化財研究所	普段目にする事のない藤原宮・京出土の実物の木簡を展示し，そのなかでも今日の我々の生活にも身近な葉にかかわる木簡を取り上げることで，古代の人々の暮らしの一端を紹介する。
奈良文化財研究所	奈良県	奈良文化財研究所 公開講演会	平成31年6月，11月（各1回）	奈良県	美術・文化財	主催：奈良文化財研究所	奈良文化財研究所の研究者が行う多数の古建築や遺物を中心とした日頃の調査研究の成果を発表する機会を提供するとともに，その成果といにしへの日本人が作り上げた文化・生活様式などを広く発信する公開講演会を開催する。
東京国立近代美術館	東京都	MOMATコレクション	平成31年4月～12月	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館	日本画，洋画，版画，水彩・素描，写真など美術の各分野にわたる充実した所蔵作品から，日本の美の優品をセレクトし，日本の近代美術の流れを海外作品も交えて紹介する。 国内美術館・博物館で初となる外国人に向けた英語による体験型鑑賞プログラムを実施。
東京国立近代美術館	東京都	美術館の春まつり	平成31年3月19日（火）～4月7日（日）	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館	桜を描いた名画など春にちなんだ作品を華やかに特集展示するとともに，参加型プログラムや飲食等で“祭り”気分を演出し，国内外からの来館者に日本の春を楽しむ機会を提供する。
東京国立近代美術館	東京都	竹工芸名品展：ニューヨークのアービー・コレクション メトロポリタン美術館所蔵	令和元年9月13日(金)～12月8日(日)	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館	本展は，アービー・コレクションから厳選した76点のかけ工芸作品を日本で初めて紹介する里帰り展である。 近年，とりわけ海外で高い関心を集める日本の近現代の竹工芸とそれを生み出した日本人の美意識を，世界有数の竹工芸コレクションであるニューヨークの「アービー・コレクション」が所属する工芸の名品を通じて，日本の自然と美意識によって育まれた竹の自由な造形美を紹介する。
京都国立近代美術館	京都府	京都の染織 1960年代から今日まで	平成31年3月8日（金）～4月14日（日）	京都府	美術・文化財	主催：京都国立近代美術館・京都新聞社	平安遷都以来，日本の染織の中心となった京都において，京の染織家たちは，その時代時代に常に新しい技術，意匠を追い求め，素晴らしい作品を生み出してきた。本展では開館した1960年代から今日までの多様な「染」と「織」の状況を紹介します。志村ふくみ，森口邦彦，北村武資，村上良子の4人の人間国宝を含む28人の作家により技法や形態は変わろうと常に新しいものを追い求め，素晴らしい作品を創りだしてきた京の様相を見ることができる。
京都国立近代博物館	京都府	川勝コレクション 鍾溪窯・河井寛次郎	平成31年4月26日（金）～6月2日（日）	京都府	美術・文化財	主催：京都国立近代美術館・京都新聞社 特別協力：河井寛次郎記念館	昭和12年（1937年）のバリ万博，昭和32年（1957年）のミラノ・トリエンナーレ国際陶芸展でグランプリを受賞した近代日本を代表する陶工・河井寛次郎の代表的な作品を網羅した川勝堅一コレクションの中から名品約250点を一堂に展示し，河合が民藝運動に参画することで，日本の自然に溢れた暮らしの中で，その造形性が晩年に向かい「生命」の喜びに溢れるものになったことを紹介する。
国立西洋美術館	東京都	国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展	令和元年6月11日（火）～9月23日（月・祝）	東京都	美術・文化財	主催：国立西洋美術館，読売新聞社，NHK，NHKプロモーション 協力：日本航空，西洋美術振興財団 協賛：損保ジャパン日本興亜，NISSHA	国立西洋美術館の開館60周年を記念し，同館が設立されるにいたる過程を，自邸の日本風の蓮池をモチーフとして，様々に変化する自然の姿を表現したモネの《睡蓮》などの美術作品や歴史的資料計約160点で概観する。 《睡蓮，柳の反映》は，1921年に松方がモネから直接譲り受けた「睡蓮」の中の1点。元は縦2メートル，横4.25メートルの大作で長い間所在不明だったが，2016年にルーヴル美術館の一角で，画布の上半分が失われた状態で発見され，国立西洋美術館に寄贈されたことで大きな話題となった。 パリ・オランジュリー美術館の「睡蓮」の大装飾画を構想する過程で描かれたとされ，画家の制作プロセスを考えるうえでも，きわめて意義のある“幻の大作”。現存部分の修復を経て，初めて公開される。

国立国際美術館	大阪府	コレクション特集展示 ジャコモッティと I	令和元年5月25日（土）～8 月4日（日）	大阪府	美術・文化財	主催：独立行政法人国立公文書館	アルベルト・ジャコモッティの彫刻作品《ヤナイハラ I》の収蔵を記念し、同時期の作家たちの作品とともに紹介。人をはじめとする自然を「見えるものを見えるとおりに」表現した作品を通じ、自然の持つ美を国内外へ発信する。
国立公文書館	東京都	平成31年春の特別展 江戸時代の天皇	平成31年4月6日（土）～5月 12日（日）	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立国際美術館	江戸時代の天皇・朝廷、江戸時代の元号選定・改元等について、国立公文書館の所蔵資料により紹介する。 上皇の御所である「桜町殿」へ向かう行幸の行列を描いた、上下合わせて全長約45メートルに及ぶ長大な絵巻には、天皇の乗物である「鳳輦」や、行列見学の人々、京都所司代による警護の様子などが描かれている。そのほか、古来からの伝統と自然を体現した天皇の玉座である高御座を展示する。
国立劇場	東京都	文楽「妹背山婦女庭訓」	令和元年5月11日（土）～27 日（月）	東京都	舞台芸術	主催：独立行政法人日本芸術文化振興会	『妹背山婦女庭訓』は、日本人が長きにわたり親しんできた、若者たちの恋の悲劇とその親たちが子を思う情愛のドラマを、四季の自然の移り変わりを通して描く壮大な歴史劇である。クライマックスの「妹背山の段」は、満開の桜の中、対立する2つの家族の関係を象徴する吉野川が流れる、文楽屈指の美しい場面である。この演目を二部構成、一日がかりで上演する本格的な公演は平成16年5月以来15年ぶりとなる。 今回の公演の新しい試みとして、98年間上演されなかった発端の場面「大内の段」を復活し、劇全体の構成の復元を行う。
国立劇場	東京都	舞踊「神々の残照」	令和元年5月25日（土）	東京都	舞台芸術	主催：独立行政法人日本芸術文化振興会（国立劇場）・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）	様々な形で神との関わりを示す日本、インド、トルコの舞踊を上演し、伝統芸能からコンテンポラリーダンスを通して、舞台芸術と文学のジャンルを超えた文化の発信を目指す。 ①日本舞踊：天下太平、五穀豊穡を祈る長唄「翁千歳三番叟」 ②インド古典舞踊：「オディッシー」 ③トルコ舞踊：メヴラーナ旋回舞踊「セマー」 ④コンテンポラリーダンス：『古事記』の"国生み"を題材に、四季折々の風土、文化を育む日本の誕生を描いた「いのちの海の声が聴こえる」（創作初演）
国立能楽堂	東京都	新作狂言鮎 -豊かな自然-	愛知県：5月5日（日）、11 月1日（金）・2日（土）、 岐阜県：5月6日（月）、石川 県：6月14日（金）	愛知県、岐 阜県、石川 県 巡回	舞台芸術	主催：CBCテレビ・中日新聞（5/5）、岐阜県関市（5/6）、公益財団法人金沢芸術創造財団（6/14）、公益財団法人豊田市文化振興財団（11/1）、愛知県半田市（11/2） 制作：国立能楽堂	清流を泳ぐ鮎役が多数登場し、貧しくとも豊かな自然の恵みを受けて田舎で暮らす者とあくまで都市での栄達を目指す若者の二人を対照的に描く物語である。「自然環境」、「地方と都市」といった現代日本が抱える問題に示唆を与える作品でもある。新作狂言以外には初心者向けの解説や人間国宝・野村万作による古典名作狂言等を同時に上演する。
国立文楽劇場	大阪府	文楽「仮名手本忠臣蔵」 -日本人の心と四季-三公演連続上演	①2019年4月6日（土）～29 日（月）（18日：休演） ②2019年7月20日（土）～8 月5日（月） ③2019年11月2日（土）～24 日（日）（13日：休演）	大阪府	舞台芸術	主催：独立行政法人日本芸術文化振興会	人形浄瑠璃文楽の『仮名手本忠臣蔵』は、日本人の「忠義」という美しい心を描き、日本の四季の移ろいの中で物語が進行する時代物の三大名作の一つで、発端（春）から本懐（冬）までが日本の四季の移ろいの中で進行する。
新国立劇場	東京都	ダンス「NINJA」	令和元年5月31日（金）～6 月2日（日） 令和元年6月7日（金）～6月 9日（日）	東京都	舞台芸術	主催：公益財団法人新国立劇場運営財団 後援：渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会、東京都公立小学校長会 特別支援：（株）オンワードホールディングス、花王株式会社、株式会社TBSテレビ、トヨタ自動車株式会社、ぴあ株式会社、株式会社日立製作所	森山開次の新作ダンス『NINJA』を制作・上演し、日本人の現代舞踊における美意識を体現。日本独自の風土や歴史から誕生した忍者という題材を通じて、またダンスという言葉によらない芸術を通して、幅広い観客層が楽しめる公園を目指す。

国立科学博物館	東京都	100年前の東京と自然－プラントハンター ウィルソンの写真から－	平成31年4月13日（土）～6月16日（日）	東京都	食文化・自然	主催：独立行政法人国立科学博物館 協力：古居智子，ハーバード大学アーノルド樹木園，一般社団法人沖縄美ら島財団，沖縄県立博物館・美術館，東京大学大学院理学系研究科附属植物園，公益社団法人屋久島環境文化財団，東京新聞，琉球新報社	日本のサクラやツツジを西欧に広め，日本の植物学の発展に貢献したイギリス出身のアーネスト・ヘンリー・ウィルソンが，およそ100年前に日本を訪れた際に残した写真と同じアングルから撮影した現在の写真を展示。
国立科学博物館	東京都	日本人が育んださくらそうの文化史	平成31年4月6日（土）～4月14日（日）	東京都	食文化・自然	主催：独立行政法人国立科学博物館，筑波実験植物園，筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター 協力：筑波大学大学院生活環境科学研究科育種学分野，筑波大学さくらそう里親の会，NPOつくばアーバンガーデニング	サクラソウの園芸品種を通して，日本人が野生の植物がもつ様々な遺伝的特性に気づき愛でてきた，室町時代から続く歴史があることを伝える。
国立科学博物館	東京都	四季と生き物たち	令和元年6月～8月	東京都	食文化・自然	主催：国立科学博物館附属自然教育園 協力：白金自然写真クラブ	自然教育園は，都会の中のアアシともいえる貴重な森林を有する。その自然の四季折々の変化を捉えた写真を展示することで，春夏秋冬の変化に富んだ日本の自然のすばらしさを伝える。
日本芸術院	東京都	近代日本芸術の100年 －日本芸術院創設百周年記念展	第2回 令和元年5月1日（水）～5月13日（月） 第3回 令和元年9月20日（金）～10月6日（日） 第4回 令和2年1月10日（金）～1月23日（木） 第5回 令和2年7～8月頃 第6回 令和3年1月頃 ※第1回は平成31年1月に終了	東京都	美術・文化財	主催：日本芸術院	日本芸術院会員や恩賜賞・日本芸術院賞受賞者の「自然」にまつわる作品を中心に公開することで，激動の日本近代美術界を牽引してきた名だたる作家たちの，時代を代表する作品を展覧し，日本の美を体現する。
Reborn-Art Festival 実行委員会	宮城県	リボーンアート・フェスティバル	令和元年8月3日（土）～9月29日（日）	宮城県	美術・文化財	主催：Reborn-Art Festival 実行委員会，一般社団法人APバンク 共催：宮城県，石巻市，塩竈市，東松島市，松島町，女川町，株式会社河北新報社，東日本旅客鉄道株式会社仙台支社，ヤフー株式会社	現代アートと音楽，食の3分野のアーティストが集まり，復興の中で「生きる術」を発揮してきた地域住民との共創で織りなす総合芸術祭として，一層の地域発展と国内外来客数の増加を目指す。
日本舞踊協会	東京都	第3回日本舞踊 未来座=彩（SAI）＝ 「春夏秋冬」 「檜男=びのきお=」	令和元年6月21日（金）～23日（日）	東京都	舞台芸術	主催：公益財団法人日本舞踊協会 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活性化事業），独立行政法人日本芸術文化振興会	日本舞踊の作品には，日本人の自然観，死生観などが色濃く反映されている。日本舞踊の持つ日本人ならではの繊細で細やかな多彩な舞踊表現を用い，内容やテーマも現代の観客や外国人にもわかりやすい新作を提供する。
香川県	香川県	瀬戸内国際芸術祭	平成31年4月26日（金）～5月26日（日） 令和元年7月19日（金）～8月25日（日） 令和元年9月28日（土）～11月4日（月）	香川県	美術・文化財	主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会	地域資源を生かしたアートプロジェクトや「食」に関する取組を通じて，美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し，瀬戸内が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指す。
第35回国民文化祭宮崎県実行委員会 第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会	宮崎県	第35回国民文化祭・みやざき2020， 第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会	令和2年10月17日（土）～12月6日（日）	宮崎県	美術・文化財	主催：文化庁，厚生労働省，宮崎県，宮崎県教育委員会，市町村，市町村教育委員会，第35回国民文化祭宮崎県実行委員会，第35回国民文化祭宮崎県実行委員会，第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会	宮崎県が誇る文化資源である「日向神話」や「神楽」などを国内外に発信するほか，県内全市町村において，音楽や演劇，美術や書道，郷土芸能など広く親しまれた芸術・文化に加え，新たなジャンルの文化や「山の幸」「海の幸」が生み出す豊かな食文化など，様々な文化を楽しむことができる事業を予定。

日本芸術文化振興会	東京都	東京シシマイコレクション2020プレ ～東日本大震災から復活したシシマイ～	令和元年5月11日（土）～12日（日） 令和元年10月～11月頃	東京都	被災地復興	主催：独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所，独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館，独立行政法人日本芸術文化振興会	「獅子舞」は、豊作祈願や大漁祈願など自然に対する祈りの形でもあり、東日本大震災の後には、地域の復興や精神的な救済に大きく貢献してきた。被災地の獅子舞の豊かな表現を訪日外国人を含めた多くの人に知ってもらい、あわせて被災地への誘客も図る。
第34回国民文化祭， 第19回全国障害者芸術・文化祭新潟県実行委員会（新潟県県民生活・環境部文化振興課内）	新潟県	第34回国民文化祭・にいがた2019， 第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会	令和元年9月15日（日）～11月30日（土）	新潟県	美術・文化財	主催：文化庁，厚生労働省，新潟県，第34回国民文化祭，第19回全国障害者芸術・文化祭新潟県実行委員会，市町村，市町村実行委員会，全国及び県内の文化関係団体等	国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を新潟で初めて開催。北前船によって海路から上方文化，陸路から江戸文化が新潟の地で交差・融合し，「文化の丁字路（ていじろ）」が形成された。地理的な歴史や独特な風土に由来する豊かな文化創造力を国内外に発信し，障害のある人もない人も共に楽しみ，街道を分かち合う。
六本木アートナイト 実行委員会	東京都	六本木アートナイトを中心とした アートの拠点及びネットワーク事業	平成31年4月1日～令和2年3月31日（その後も継続予定） ※六本木アートナイト2019 <メインイベント>令和元年5月25日（土）～5月26日（日）（予定）	東京都	美術・文化財	主催：東京都，アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団），港区，六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館，サントリー美術館，東京ミッドタウン，21_21 DESIGN SIGHT，森美術館，森ビル，六本木商店街振興組合（五十音順）】	舞台である「街」は，歴史と共に育まれてきたという点で「自然」との共通点を持ち，さらに構成要素としても「自然」の一部を内包しうる。六本木アートナイトはダイバーシティの象徴のような六本木エリアという「街」を存分に生かしながら，日本の中でも最先端のヒト・モノ・情報が集積し，アート作品のみならず，デザイン，音楽，映像，演劇，舞踊などを含む多様な作品を点在させ，非日常的な体験を作り出す。
京都国立博物館	京都府	流転100年 佐竹本三十六歌仙と王朝の美	令和元年10月12日（土）～11月24日（日）	京都府	美術・文化財	主催：独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館，日本経済新聞，NHK京都放送局，NHKプラネット近畿総支社，京都新聞	和歌は「やまとうた」とも言われるように日本固有の詩の形式であり，和歌には日本の自然とそれを感じる日本人の心も多く詠まれている。また，関連する文化財の中にも多くの日本の自然が表現されており，展示を通じて日本人の自然観，価値観を紹介する。
国立公文書館	東京都	雨に詠えば 一空模様の古典文学一	令和元年7月27日（土）～9月8日（日）	東京都	美術・文化財	主催：独立行政法人国立公文書館	身近な気象現象である雨をテーマに，上代から近世までに成立した様々な古典文学について，国立公文書館の所蔵資料により紹介する。本展では，「雨」にかかわる様々な表現による歴史的な和歌，物語と挿絵など多くの歴史資料を展示することを通じ，古来からの伝統と自然を日本人が体現してきた「日本の美」を発信する。
国立劇場	東京都	国立劇場6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」『神霊矢口渡』	令和元年6月2日（日）～24日（月）（国立劇場），6月26日（水）（静岡公演）	東京都，静岡県	舞台芸術	主催：独立行政法人日本芸術文化振興会 後援：文化庁／東京都／埼玉県／千葉県／埼玉県教育委員会／千葉県教育委員会／神奈川県教育委員会／ 全国都道府県教育委員会連合会／公益財団法人日本修学旅行協会 協力：公益社団法人東京都専修学校各種学校協会／一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会／関東高等学校演劇協議会／ 東京都高等学校演劇研究会／株式会社JTB／株式会社日本旅行／株式会社近畿日本ツーリスト首都圏 静岡公演における協力：公益財団法人静岡県文化財団／静岡県	『神霊矢口渡』は，多摩川の渡し船の一つであった「矢口の渡し」を舞台としており，日本独特の自然と景観を背景とした人間ドラマが描かれている。本作の上演を通して，日本人の洗練された美意識と独特の感性に根付いた伝統芸能「歌舞伎」を次世代に伝え，新たな観客層の開拓を図るとともに，2020年東京大会を目前に控え，多言語対応の充実や体験型ワークショップの実施を通して，歌舞伎の魅力を世界に発信する。
国立能楽堂	東京都	外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN	令和元年5月29日（水），10月31日（木）	東京都	舞台芸術	主催：日本芸術文化振興会 国立能楽堂	能・狂言は日本の自然無しには成立しなかった伝統芸能であり，本事業で上演される作品も「日本人と自然」というテーマにふさわしい内容となっている。多言語化されたパンフレットや字幕による解説を設けることで，訪日外国人の誘客を図る構成となっている。また短時間で効果的に能・狂言の魅力を伝えることのできるコンパクトな内容は，能・狂言普及のプロトタイプのひとつとして，今後のレガシーとなる可能性を大いに含むものである。

国立能楽堂	東京都	国立能楽堂ショーケース	令和元年7月24日（水）～26日（金）、8月25日（日）～27日（火）	東京都	舞台芸術	主催：日本芸術文化振興会 国立能楽堂	能・狂言は日本の自然無しには成立しなかった伝統芸能である。本事業で取り上げる作品も、狂言の「伯母が酒」では酒、「柿山伏」では柿と、我が国の自然が生んだ飲食物が作品の鍵となっている。また能も、「小鍛冶」では稲作の神である稲荷明神が、古くから霊獣として扱われている狐の姿となって活躍し、「安達原」は日本の原風景ともいえるススキ生い茂る秋の情景が象徴的に描かれ、福島・安達ヶ原を舞台に同地に伝わる鬼女伝説を取り入れた作品であり、古来から伝わる伝説や日本人特有の感性が色濃く反映されている。
能登ふるさと博開催実行委員会	石川県	能登ふるさと博	平成31年4月1日（月）～令和2年3月31日（火）	石川県	食文化・自然	主催：能登ふるさと博開催実行委員会 後援：北國新聞社	能登半島全体を一つのフィールドに見立て、能登地域が一体となってさまざまなイベントを開催することにより、にぎわいの創出を図るとともに、「元気な能登」を全国に発信する。
石川の四季観光キャンペーン実行委員会	石川県	金沢城・兼六園四季物語	平成31年4月5日（金）～令和2年2月16日（日）	石川県	美術・文化財	主催：石川の四季観光キャンペーン実行委員会 後援：北國新聞社	金沢城公園や玉泉院丸庭園、兼六園を舞台に、夜の魅力アップを図ることを目的に、四季を通じてライトアップ等のイベントを開催し、観光石川の魅力を国内外にアピールすることで、石川ファンの増やし、観光誘客を図る。
徳島県	徳島県	とくしま夏の音楽祭2019	令和元年7月6日（土）～7月7日（日）	徳島県	生活文化・文芸・音楽	主催：徳島県 協力：徳島県邦楽協会、徳島文理大学ほか	徳島に息づく音楽文化は、豊かな自然と人々の暮らしが生んだ伝統文化「阿波藍」を源流とし、かつて「阿波藍」がもたらした莫大な富が「阿波人形浄瑠璃」や「阿波おどり」を育んできた。それぞれに共通する笛、三味線をはじめとする邦楽が盛んなことに加え、「四国遍路」の玄関口として息づくお接待の精神が「ベートーヴェン第九」アジア初演に繋がったことからクラシック音楽も長く親まれている。このような多彩な音楽文化を発信し、その魅力に触れる音楽祭を実施する。
文化庁	東京都	発掘された日本列島2019	令和元年6月1日（土）～7月21日（日）、8月2日（金）～9月10日（火）、9月21日（土）～11月4日（月）、11月16日（土）～12月28日（土）、令和2年1月18日（土）～2月26日（水）	東京都、岩手県、青森県、愛知県、福岡県	美術・文化財	主催：東京都江戸東京博物館、花巻市博物館、三内丸山遺跡センター、名古屋市博物館、大野城心のふるさと館、全国新聞社事業協議会、東京新聞、岩手日報社、東奥日報社、中日新聞社、西日本新聞社 協力：全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会、全国埋蔵文化財法人連絡協議会、共同通信社、公立財団法人元興寺文化財研究所 後援：全国史跡整備市町村協議会	埋蔵文化財の発掘調査によって、旧石器時代以来、人は日本列島の多様な気候風土に適應して、多彩な生活文化を紡ぎあげてきたことが分かっている。その中には、自然への畏敬を表した「造形美」、生活に直結した「機能美」など、豊かな美意識を見て取ることができ、日本列島の多様な自然に適應した生活文化の隅々に美意識が刻まれている。国民に日本の文化と歴史により深く、身近に親しんでもらう。
国立劇場	東京都	国立劇場7月歌舞伎鑑賞教室「菅原伝授手習鑑 一車引一」「棒しばり」	令和元年7月3日（水）～24日（水）	東京都	舞台芸術	主催：独立行政法人日本芸術文化振興会	『菅原伝授手習鑑一車引一』は、「梅・松・桜」という日本の自然を象徴する木を名に冠した三つ子の兄弟をめぐる物語で、日本人が古来より親しんできた自然に対するイメージが随所に投影されている。『棒しばり』は食に対する古来からの日本人の心性が垣間見える外国人にも楽しめる作品。両作の上演を通して、日本人の洗練された美意識と独特の感性に根付いた伝統芸能「歌舞伎」を次世代に伝え、新たな観客層の開拓を図るとともに、2020年東京大会を目前に控え、多言語の対応によって歌舞伎の魅力を世界に発信することも視野に入れる。今回は初めて伝統芸能にあわせて、華道等の日本の伝統的な生活文化についても体験できる場を試行的に提供する。